

胆石を伴った重度胆膵炎の犬における外科的治験例

宇野雄博^{1), 4)†} 岡本健太郎¹⁾ 尾中千春¹⁾ 藤田桂一²⁾
 山村穂積^{3), 4)} 酒井健夫⁴⁾

- 1) 愛媛県 開業 (宇野動物病院: 〒799-0112 四国中央市金生町山田井181-3)
- 2) 埼玉県 開業 (フジタ動物病院: 〒362-0074 上尾市春日1-2-53)
- 3) 東京都 開業 (Pet Clinicアニホス: 〒174-0072 板橋区南常盤台1-14-11)
- 4) 日本大学生物資源科学部 (〒252-0813 藤沢市亀井野1866)

(2008年9月29日受付・2009年7月8日受理)

要 約

一年前に胆石を伴った胆膵炎の病歴がある5歳3カ月齢のミニチュア・ダックスフントが食欲不振と嘔吐を主訴に来院した。点滴静注胆道造影CT検査 (DIC-CT) を含む各種検査により、胆膵に胆汁が流入していないことが判った。また、胆膵壁の肥厚と胆膵内を占拠する層状の内部構造を持った胆石が認められた。精査の結果から胆膵を摘出した。胆膵内と胆膵外壁周囲の細菌学的検査では *E. coli* と *Enterococcus* sp. が分離された。 *E. coli* は薬剤感受性検査から基質特異性拡張型 β ラクタマーゼ産生菌であることが疑われた。症例は術前からファロペネムナトリウムの投与を行い、術後は良好に経過した。DIC-CTは胆膵胆管系の描出に優れ、画像を用いての飼い主への説明に有用であった。胆石を伴う胆膵炎は、胆膵炎の再発防止のため積極的に外科的治療を考慮する必要があると考えられた。

——キーワード：胆膵炎，犬，点滴静注胆道造影CT。

----- 日獣会誌 62, 956～961 (2009)

† 連絡責任者：宇野雄博 (宇野動物病院)

〒799-0112 四国中央市金生町山田井181-3

☎0896-58-7321 FAX 0896-58-2137

E-mail : uno-takehiro@eagle.ocn.ne.jp